

【商業科・事務情報科】 2年次 【選択】科目「国語教養」授業のシラバス

1 概要

教科名	国語	科目名	国語教養	単位数(コマ数)	2単位(78コマ)
科目の目標	国語で適切な表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、自ら進んで表現することによって、国語を充実させる力を育てる。				
教科書(出版社)		副教材(出版社)	テスト式国語常識総演習修訂三版(京都書房) 楽しく書ける作文・小論文入門編(桐原書店)		

2 学習の方法

(1) 予習について

授業では毎回、前の授業で扱った漢字の読み、書き、文学史、文法の確認テストを実施します。結果は評価に反映されますので予習・復習をしっかりと行って、知識の定着を図ってください。また、特に作文では構想メモなどを用いて、テーマに即した適切な内容のものにするためにも、テーマが提示されたら事前に構想メモを作成するようにしましょう。

(2) 授業について

- ①前期前半はテスト式国語常識の演習のテキストを用いて行います。
- ②前期後半は作文能力を養います。書き上げた文章は必ずクラスで発表し、伝え方の勉強もします。
- ③後期には会話・対話・討論などコミュニケーションに関わる勉強を行います。
- ④最後に社会で通用する教養を身に付けるために、実用文を勉強します。

(3) 復習について

国語の基礎教養を身に付けるためには覚える・使える作業を繰り返し行うことが大切です。この授業における復習は国語常識の問題集を繰り返し勉強することです。勉強に王道なし。地道な努力が明日のあなたを築くことでしょ。

〈学習アドバイス〉

国語の力は日常生活で養って行くことが大切です。読書をしたり、新聞を読んだり、映画やテレビドラマなどを視聴したりしながら、語彙力と表現力を豊かにしていくことです。教科書だけを読んでいても国語の力は身につけません。言葉の力を意識しながら、様々な文章を読んだり、ものを見たり聞いたりすることが大切です。今自分の使っている言葉が、しっかりと相手に伝わっているのかを意識してみましょう。また、相手の言っていることがしっかりと理解できているかを確かめましょう。国語の力は日常の生活の向上のためにあると思います。意識的な「学び」を心掛けてみてはどうでしょうか。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	日本語や言語文化に対する関心を高め、国語力の向上を図ることができたか。
② 話す聞く能力	筋道を立てて話したり正確に人の話を聞き取ることができたか。
③ 書く能力	目的に応じて、適切に文章を書くことができたか。
④ 知識・理解	表現と理解に必要な知識を身につけているか。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する）

評価材料		定期考査・確認テスト 実力テスト		小テスト	問題集・プリント	発問	課題作文	スピーチ	グループワーク
観 点	割合								
① 関心・意欲・態度	15%	△	単元で扱った内容が、日常での生活で活かされたり、関係したりした場面や経験を問う問題。	◎	◎	○			○
② 話す聞く能力	15%					○		◎	○
③ 書く能力	30%	○	単元で扱った語彙を用いて文章を作成する短文作成問題。		○		◎		○
④ 知識・理解	40%	◎	単元で扱った国語の基礎的知識や理解力を問う漢字の書き取り、読み、意味を問う問題。	○		◎			○

〈担当者からのメッセージ〉

評価は日常の学習の取組がどのくらいできているかを判断します。提出物は日頃からしっかりと準備しておけば全員ができることです。そのような誰もができてしっかりとできているのが評価の基本となりますので、日々の学習の取組をしっかりとしましょう。今やれることは今やる。決して後回しにしない気持ちをもって学習に取り組んでください。

【商業科・事務情報科】 2年次 【選択】科目「国語教養」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	国語の基礎力を養う学習	17	「漢字の読み」 「漢字の書き取り」 「ことばの使い方」 「文章表現・韻文・文学史・文法」	①④	予習復習など意欲的に取り組むことができる。 国語の基礎知識を深め、適切に使うことができる。	小テスト (適宜実施)
5						
6	作文の書き方の学習	9	「原稿用のルール」 「作文・小論文にふさわしい表現」 「箇条書き発想法」 「具体例の挙げ方」 「構成の仕方」	①③④	・意欲的に授業に参加し、作文への関心を高め、書き上げることができる。 ・テーマに即した作文を書くための知識を得、使うことができる。	前期中間考査 問題集提出
7						
8	作文演習	9	様々なテーマで作文を書く 推敲の方法を身につける 発表し相互評価を行う	①②③ ④	・テーマに即した作文を書くことができる。 ・文章の内容を分かりやすく、適切に構成できる。 ・作文を発表し、適切な相互評価ができる。	課題作文提出
9						
後期 10	話し方の学習	9	敬語表現の習得 人前で話す際の言葉選び	①②④	・人前で適切に自己表現し、コミュニケーションを取ることができる。 ・敬語の基礎知識を身に付け、使うことができる。	前期期末考査 プリント提出
11	スピーチ	7	作文技術を用いて原稿を作成し、発表を聞きあう 相互評価の中で、表現の技術を磨く	①②	・スピーチなど、相手に自分の考えを意欲的に伝えようとすることができる。 ・スピーチを行い、適切な相互評価ができる。	
12	実用文の学習	9	手紙の書き方 案内状の書き方 事務的文書の作成の仕方	①③④	・書くことへの関心を高め意欲的に取り組むことができる。 ・それぞれの用途に従い、適切な文書を書くことができる。 ・実用文の書き方を理解できる。	後期中間考査 プリント提出
1	実用的な話し方・聴き方の学習	7	話し合いの方法 面接の方法 電話対応の仕方	①②④	・ケースごとの話の仕方を意欲的に身につけようとする ことができる。 ・話し方・聞き方の知識を身につけ、理解を深める ことができる。	
2	国語基礎知識必修事項の学習	11	対義語・類義語 四字熟語 故事成語 慣用表現 外来語 表現技巧(比喩など)	①④	・予習復習など意欲的に取り組むことができる。 ・国語の基礎知識を深め、適切に使うことができる。	後期期末考査 プリント提出
3						
		計 78				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は話す聞く能力、③は書く能力、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。